

令和8年6月

令和8年	4月	～	6月期	実績
令和8年	7月	～	9月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 過去10年間	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

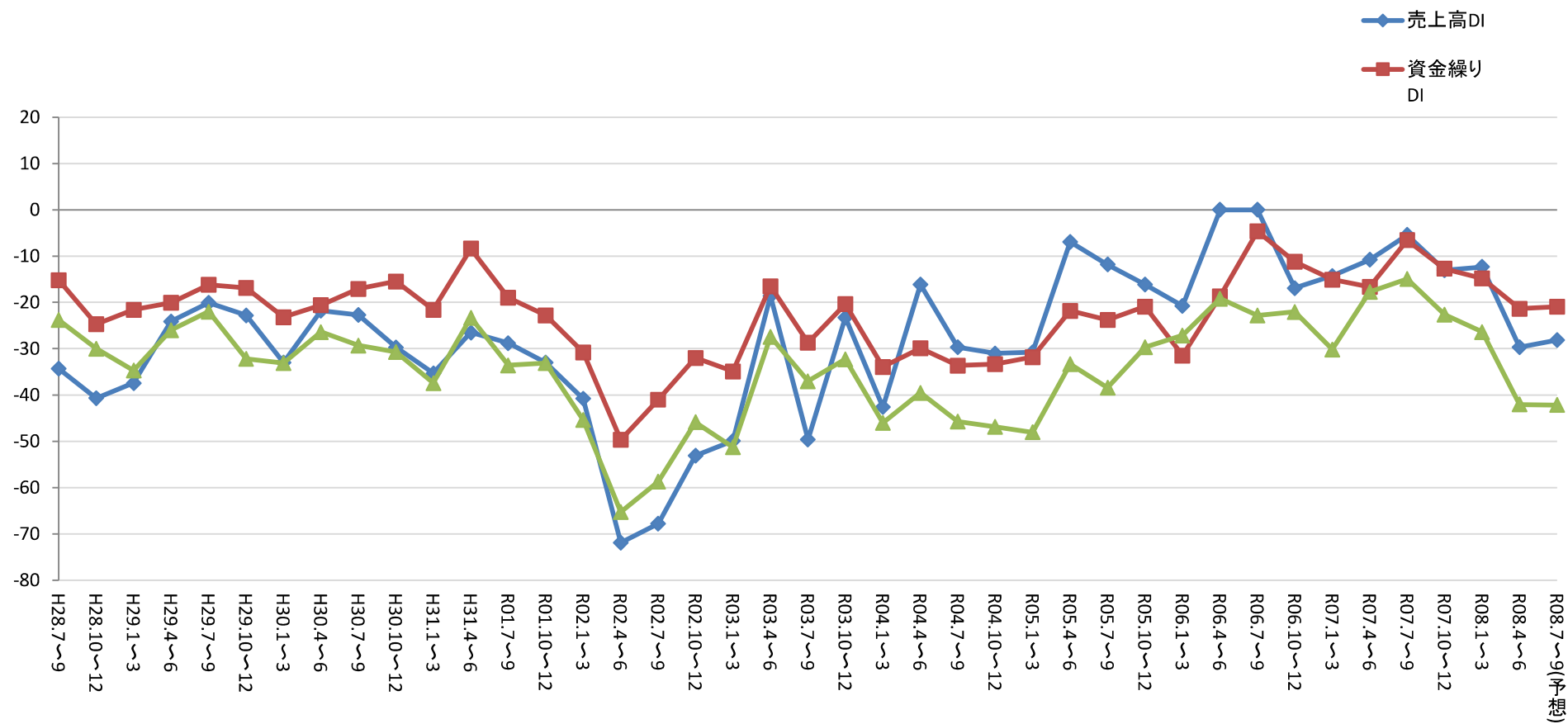
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き 一前年同期比一



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和6年 7～9月	10～12月	令和7年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和8年 1～3月	(今期) 4～6月	(見通し) 7～9月
製 造 業	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇
建 設 業	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 雨
小 売 業	 曇	 曇	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 薄 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

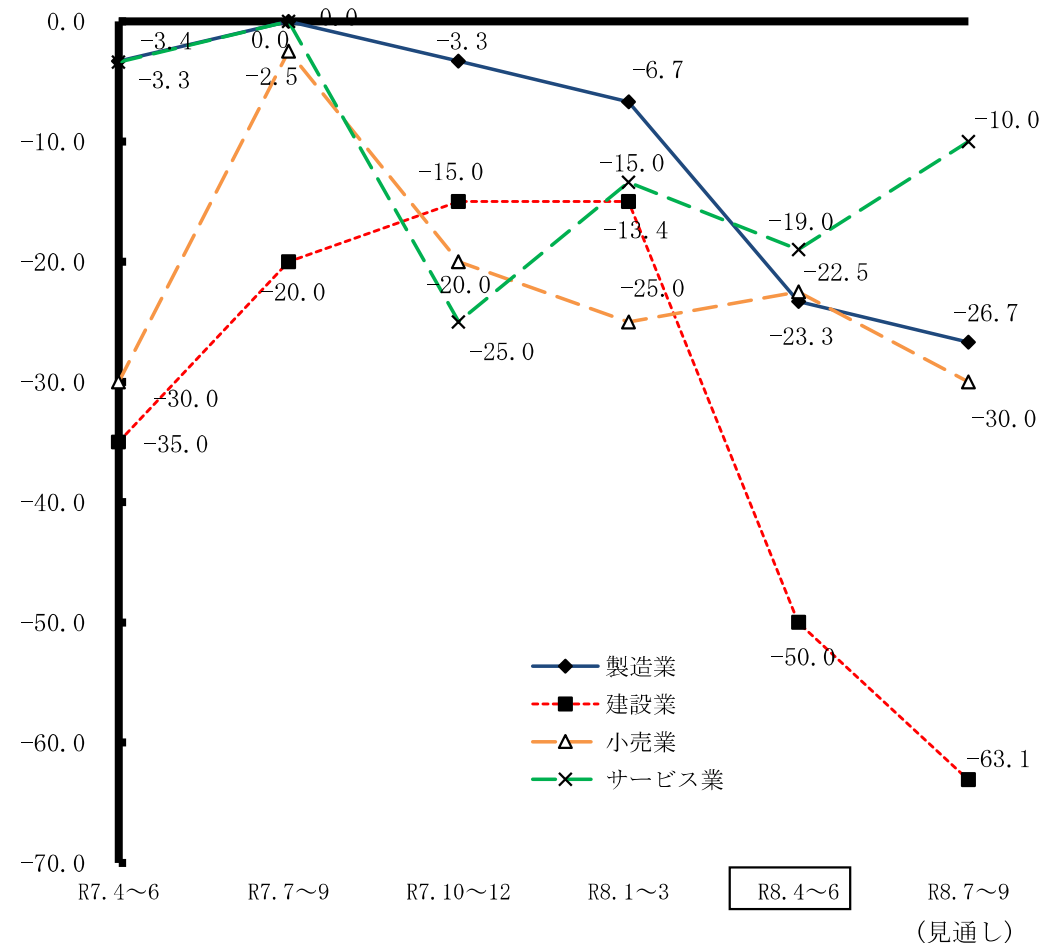
小売業を除く3業種の売上高D・Iが悪化 製造業と建設業は大幅に悪化

今期の売上高D・Iは、前期まで2期連続して低下していた小売業が下げ止まって上昇に転じたものの、製造業、サービス業、建設業は低下となりました。

前期まで2期連続して低下していた小売業は下げ止まって上昇に転じ、2.5ポイントと僅かながら上昇して△22.5となりました。他方、2期連続して低下していた製造業は今期も16.6ポイントと二桁台の低下となり△23.3までマイナス幅を拡大しています。また、前期上昇に転じていたサービス業は4.0ポイント低下して△19.0まで悪化、前期まで3期連続して上昇基調にあった建設業は36.6ポイントの大幅な低下により△50.0まで悪化しています。

来期は、サービス業の上昇が予想されていますが、小売業が低下に転じるほか、製造業、建設業は引き続き低下し、特に建設業はマイナス幅を更に拡大することが見込まれています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採算

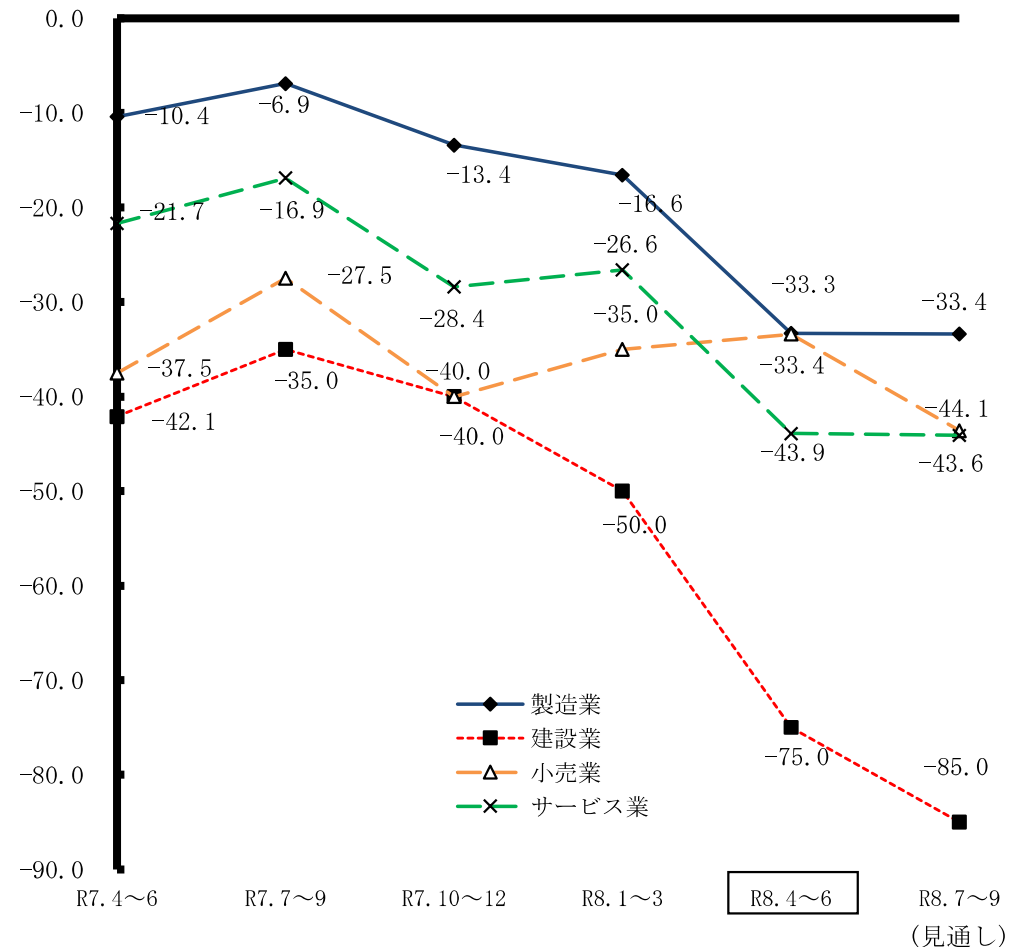
**小売業において採算D・Iが僅かに改善
製造業、サービス業、建設業は悪化**

今期の採算D・Iは、前期改善基調にあった小売業は今期も引き続き僅かに改善したものの、製造業、サービス業、建設業の3業種は悪化となりました。

小売業は1.6ポイントと僅かながら上昇して△33.4まで改善。他方、製造業は3期連続の低下となり、今期は16.7ポイント低下して△33.3まで悪化しました。また、前期僅かに改善していたサービス業も低下に転じ、17.3ポイント低下して△43.9まで悪化、建設業は25.0ポイントの大幅な低下となり、△75.0までマイナス幅を大きく拡大しています。

来期は、悪化基調にある製造業とサービス業において採算D・Iの下げ止まりが見込まれます。他方、改善基調にある小売業は悪化に転じ、また、建設業は引き続き大幅に悪化することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

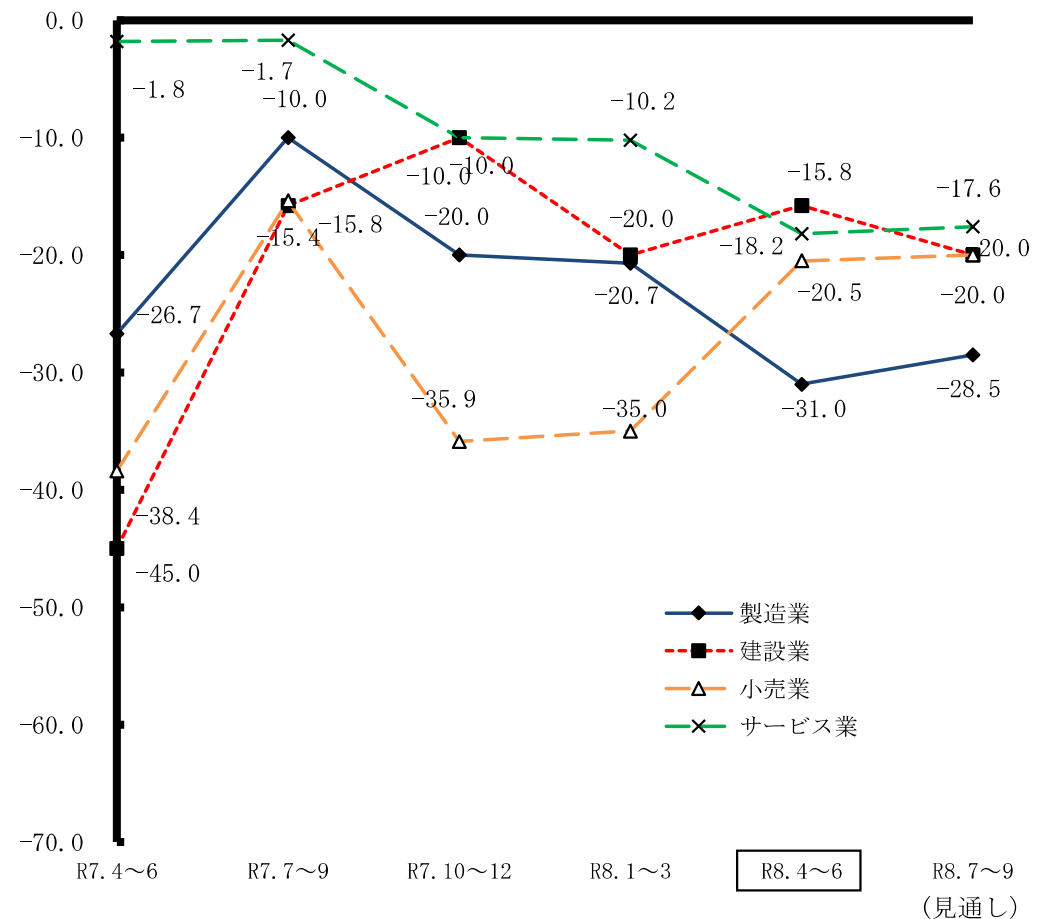
資金繰り

**建設業と小売業の資金繰りD・Iが改善
サービス業と製造業は3期連続の悪化**

今期の資金繰りD・Iは、前期下げ止まりを見せていた小売業が大きく改善、悪化基調にあった建設業も改善に転じました。他方、サービス業と製造業は3期連続の悪化となっています。

前期下げ止まりを見せていた小売業が14.5ポイントと二桁台の上昇により△20.5まで改善、前期悪化基調にあった建設業も上昇に転じて△15.8まで改善しました。他方、サービス業と製造業は3期連続の悪化となり、サービス業は8.0ポイント低下の△18.2、製造業は10.3ポイントと二桁台の低下となり△31.0まで悪化してマイナス幅を拡大しています。

来期は、製造業が改善に転じることが見込まれるものの、サービス業と小売業はほぼ横ばい、建設業は再び悪化に転じることが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

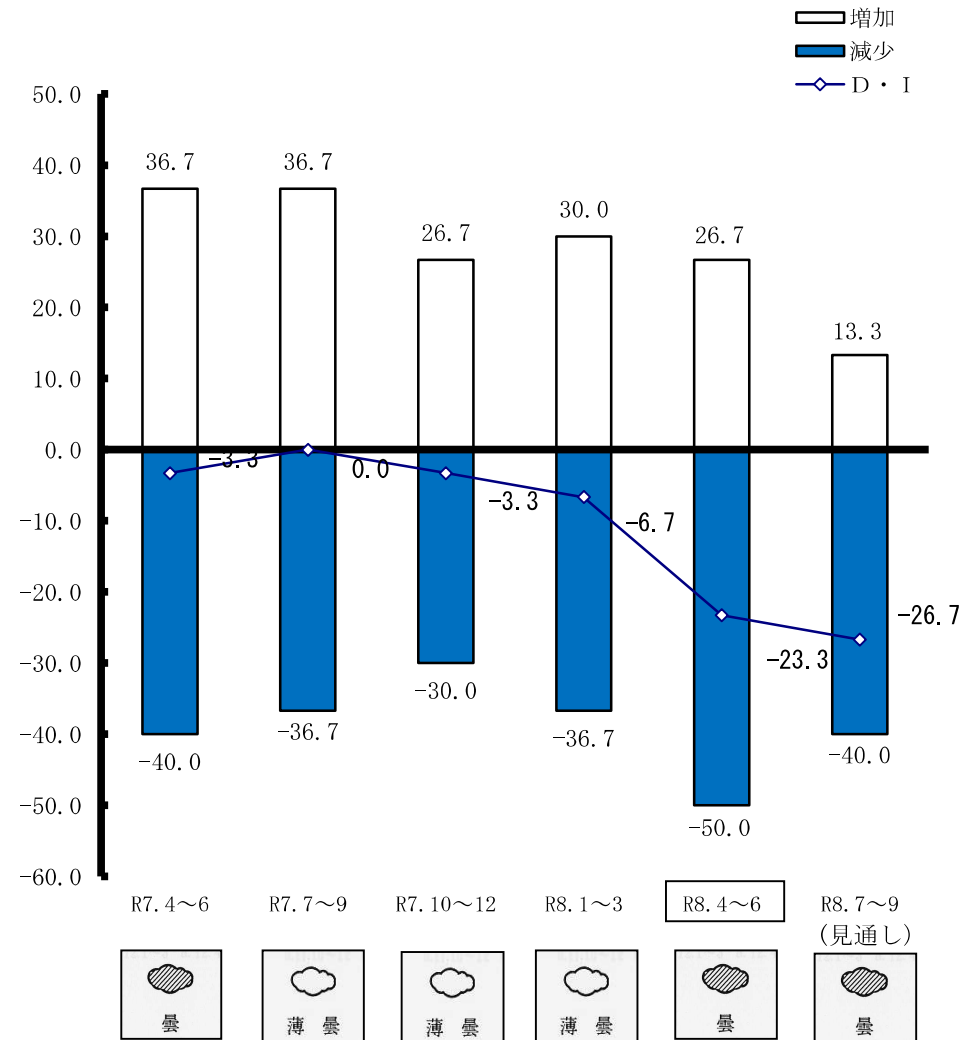


<来期見通し>



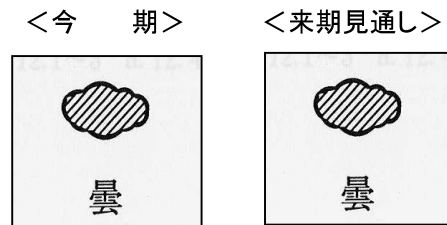
今期は、売上高増加企業の割合が3.3ポイント減少し、売上高減少企業の割合が13.3ポイント増加したことにより売上高D・Iは16.6ポイントの大幅な低下となり、△23.3となりました。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合が減少するものの、売上高の増加を予想する企業割合の減少率が高いことから、売上高D・Iは今期に引続き低下し、景況天気図も引き続き曇となる見通しです。



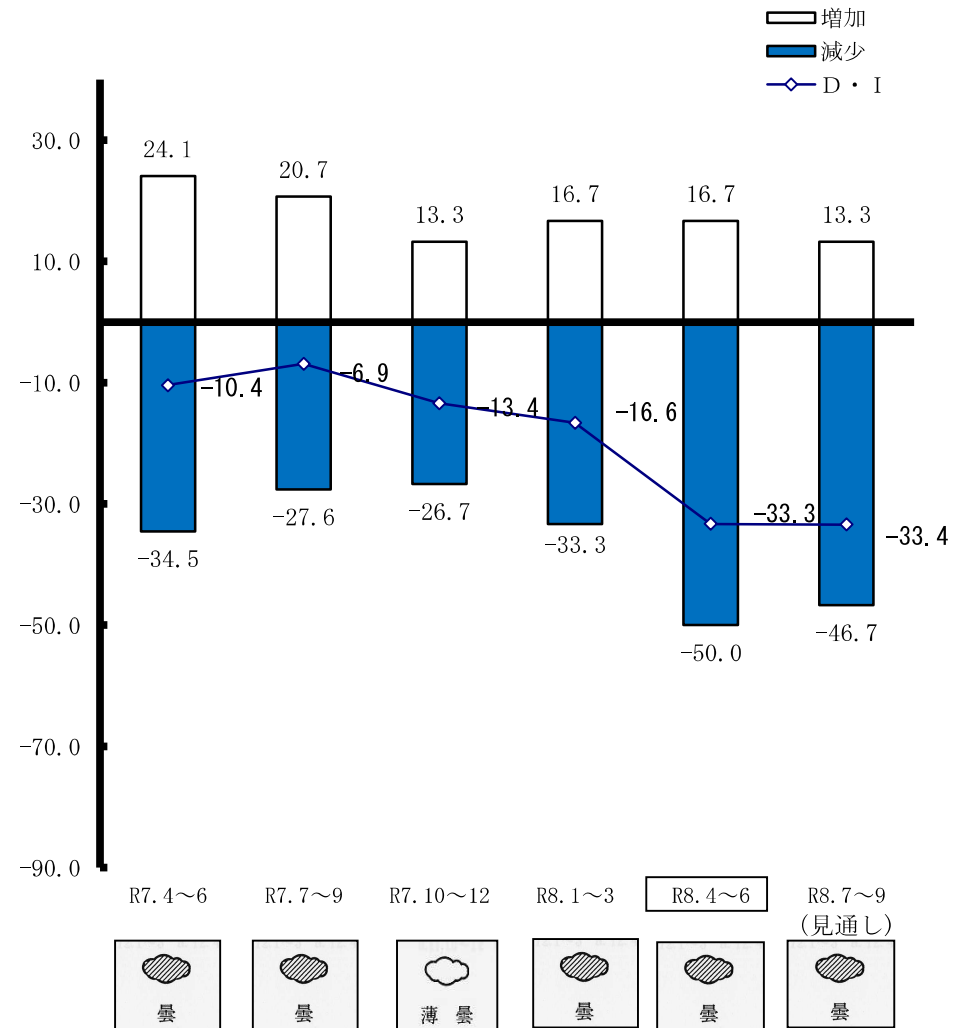
製造業の推移

採算



今期は、採算が改善した企業の割合が前期と横ばいとなったものの、採算が悪化した企業の割合が16.7ポイント増加したことにより採算D・Iは16.7ポイント低下して△33.3まで悪化しています。

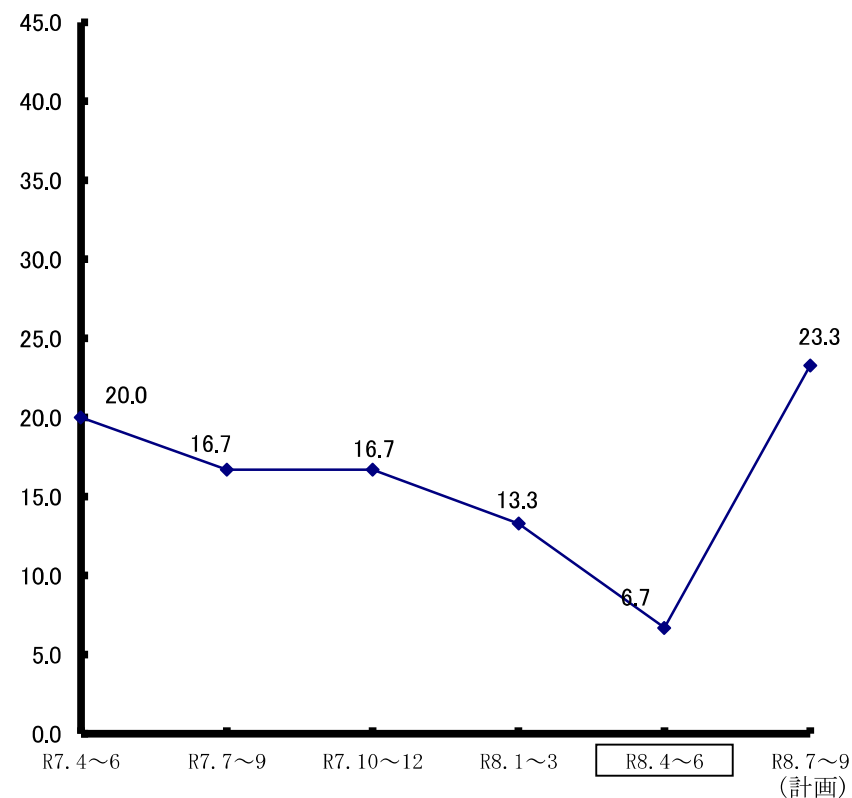
来期は、採算の改善を予想する企業が僅かに減少するものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは今期とほぼ横ばいとなる見通しです。



設備投資

製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から6.6ポイント減少し、6.7にとどまっています。

来期は、設備投資の実施を予定する企業数の割合が16.6ポイント増加し、設備投資実施予定企業の割合は23.3まで増加する見通しとなっています。



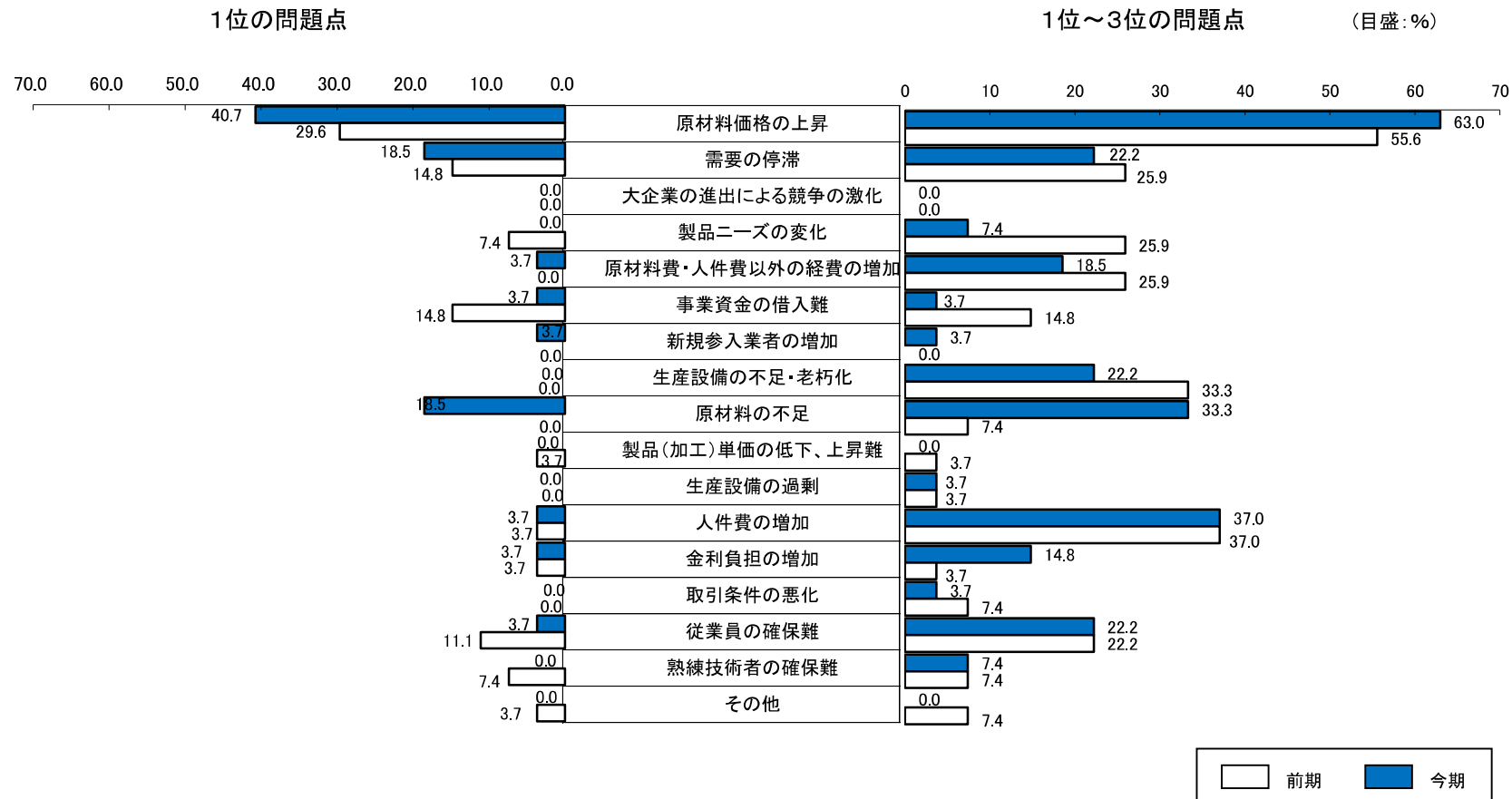
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



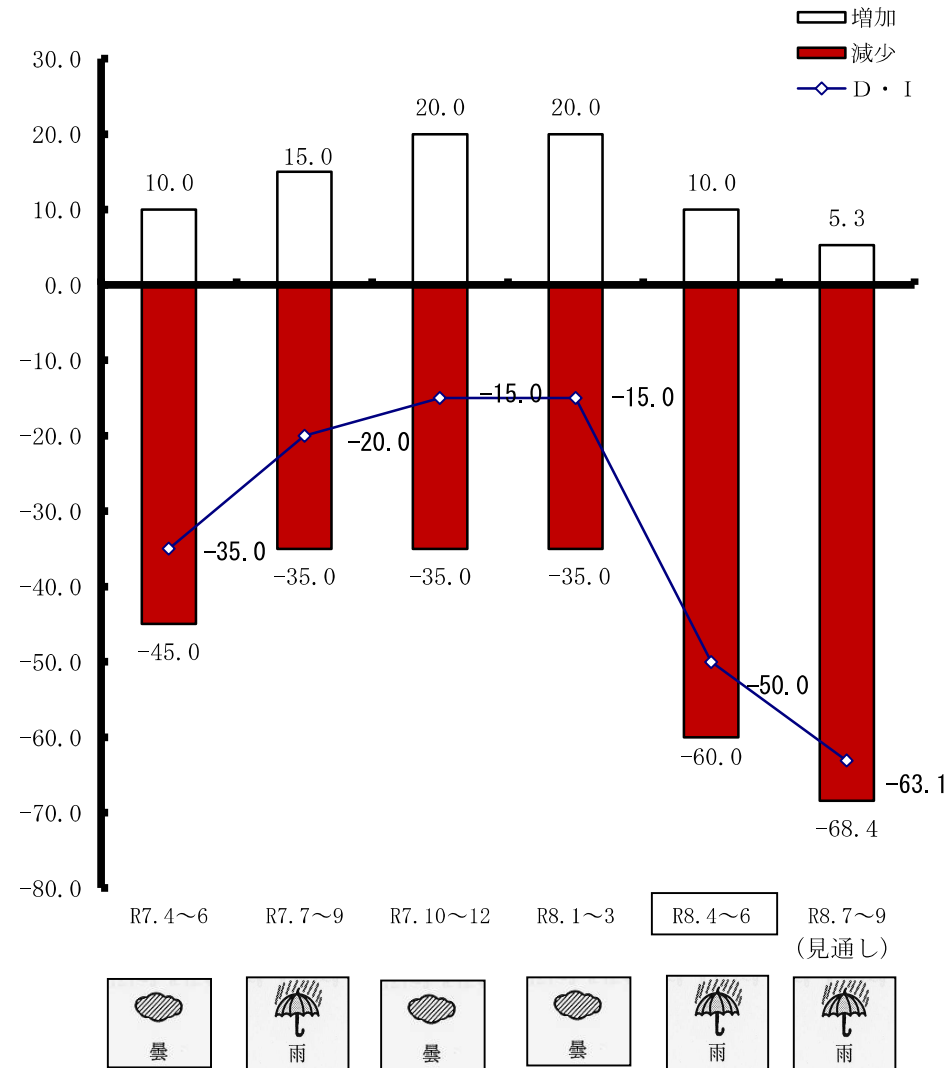
<来期見通し>



前期まで3期連続して上昇していた建設業の売上高D・Iは、今期は大きく低下しました。今期は売上高が増加した企業割合が10.0ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が25.0ポイントと大幅に増加したため、売上高D・Iは35.0ポイントの大幅な低下となり、景況天気図も曇りから雨へと変化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期に引続き減少し、売上高の減少を予想する企業も増加するため、売上高D・Iは今期に引き続いて低下してマイナス幅を拡大することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



建設業の推移

採算

<今 期>

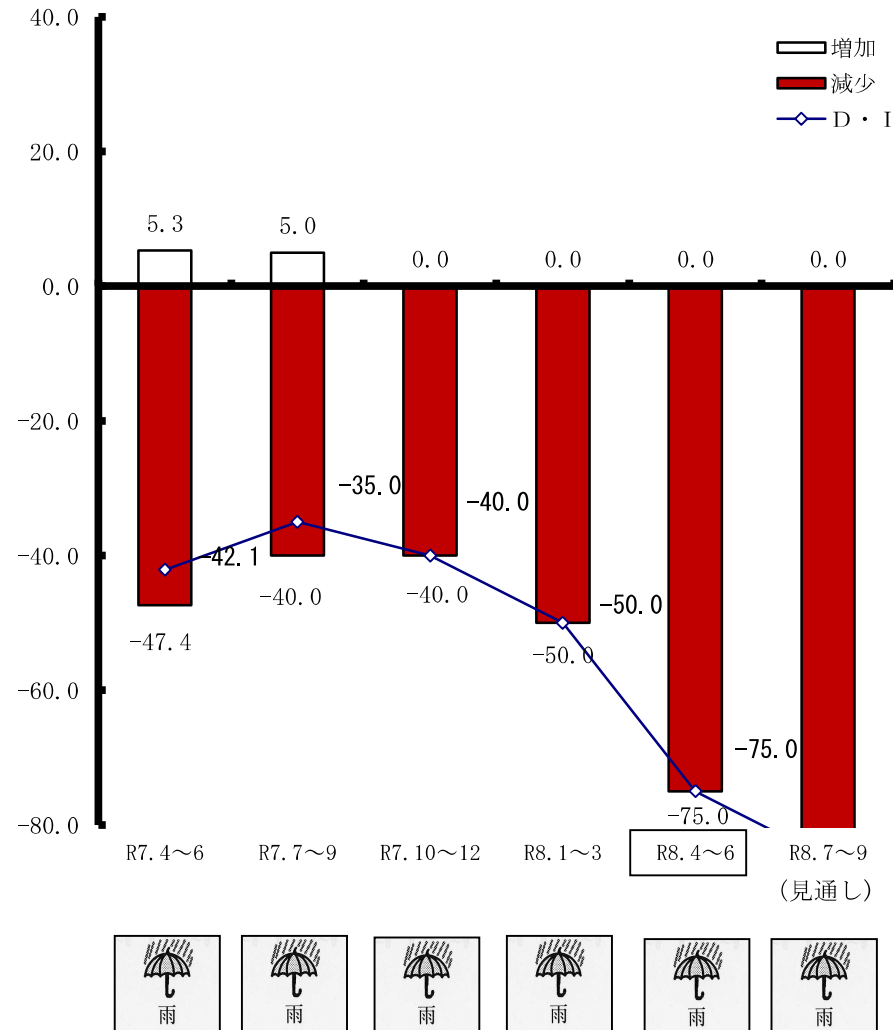


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合がゼロ3期連続してゼロにとどまった一方、採算が悪化した企業の割合が増加したことから、採算D・Iは25.0ポイント低下して△75.0までマイナス幅を拡大して低迷しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が今期に引続きゼロにとどまり、採算の悪化を予想する企業が引続き増加することから、採算D・Iは今期に引続き大きく悪化する見通しとなっています。

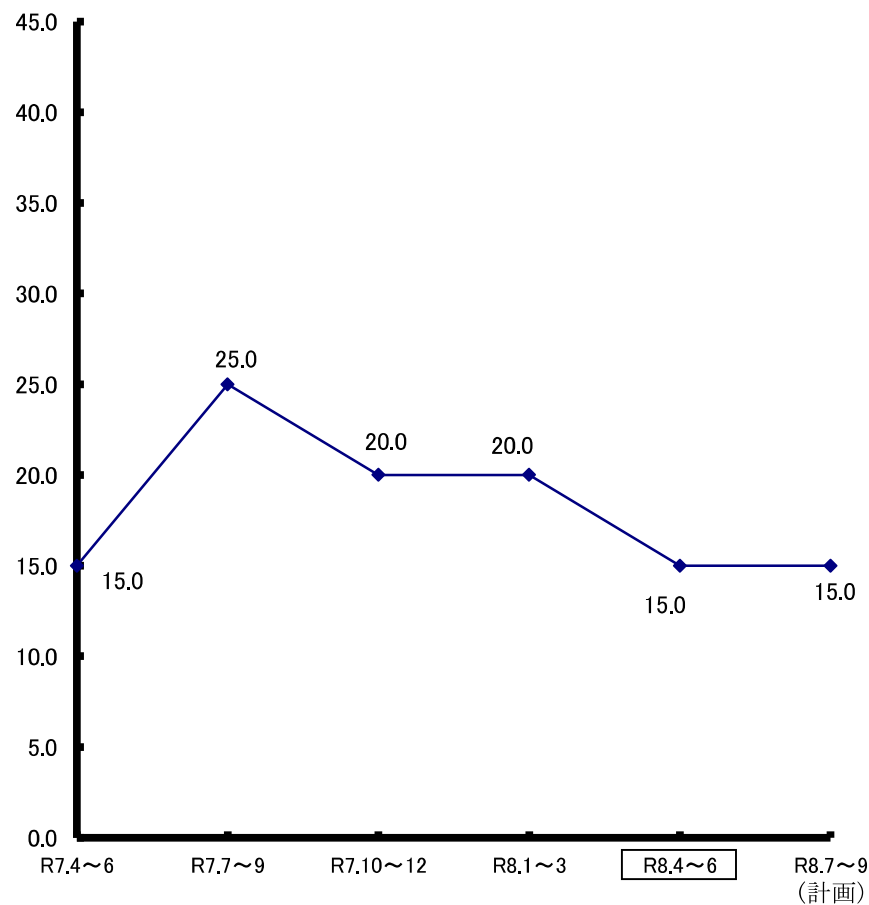


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より 5.0 ポイント減少し、15.0 にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と横ばいのレベルにとどまることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

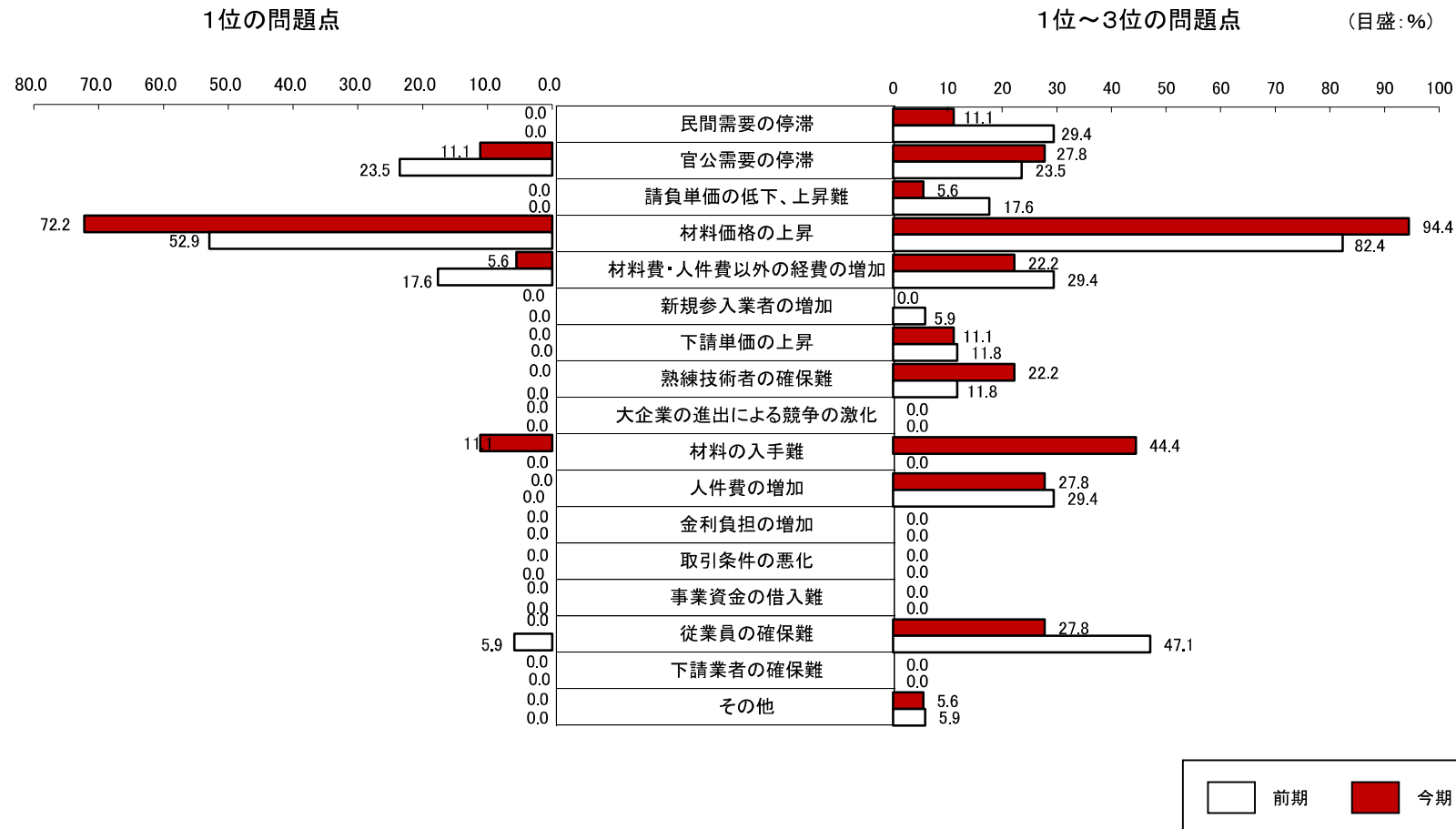


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

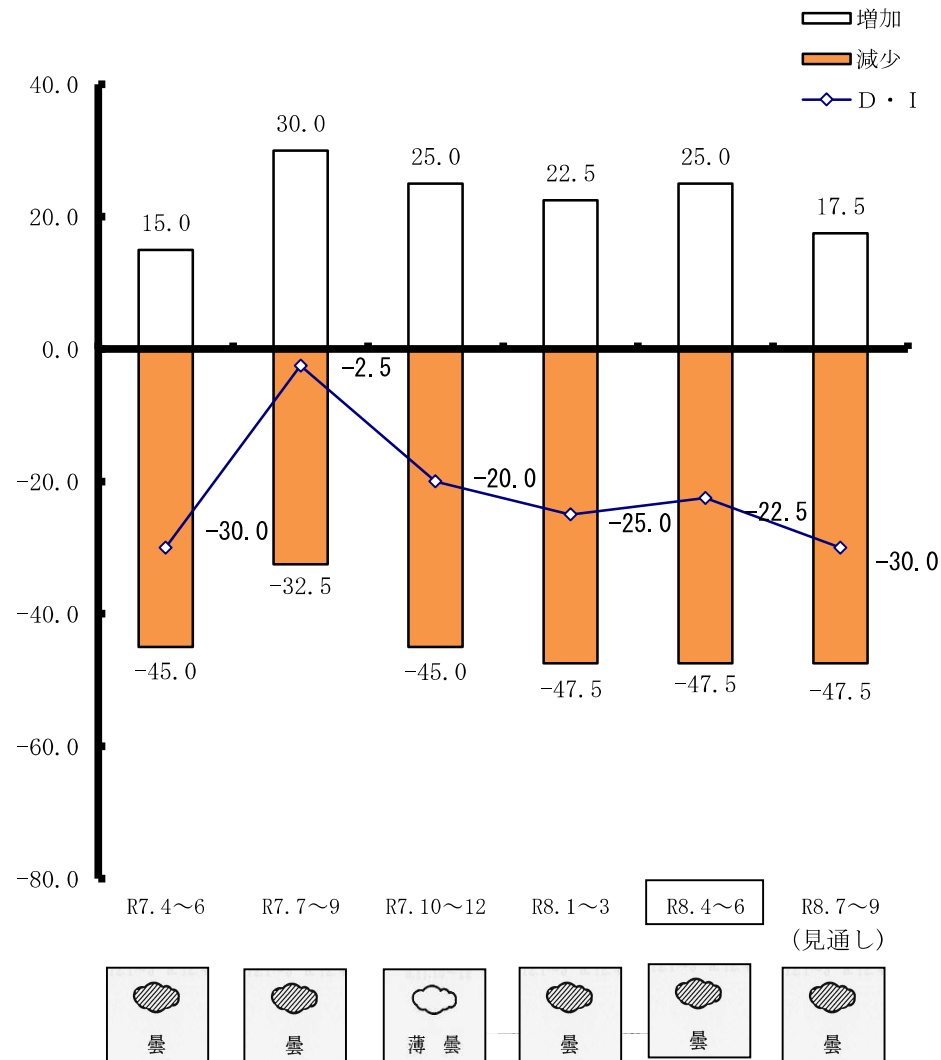


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が2.5ポイント増加し、売上高減少企業の割合が前期と横ばいとなったことにより、売上高D・Iは2.5ポイントの上昇となり△22.5となりました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は減少に転じ、他方、売上高の減少を予想する企業割合が今期と横ばいとなることから、売上高D・Iは低下する見通しです。

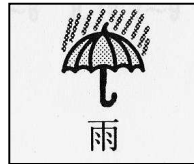


小 売 業 の 推 移

採 算

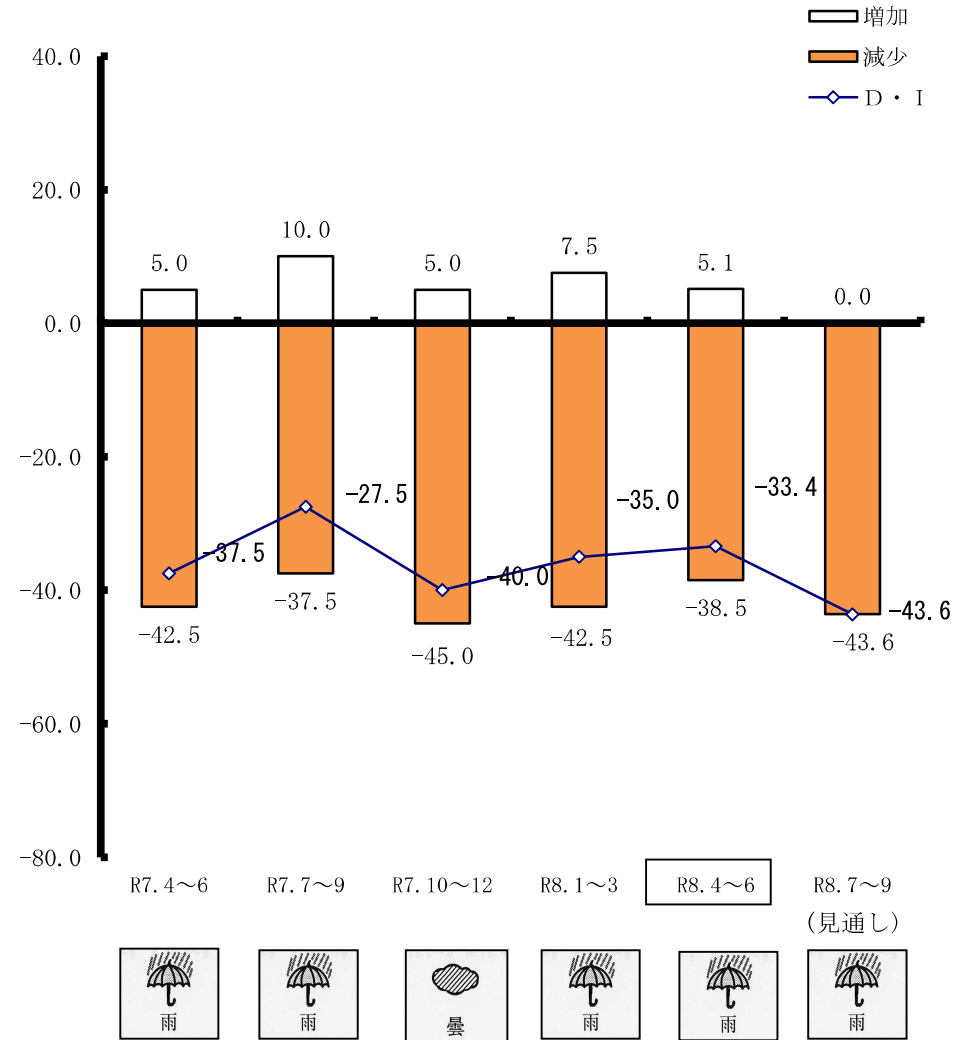
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、2.4ポイント減少した一方、採算が悪化した企業割合が4.0ポイント減少したことから、採算D・Iは1.6ポイント増加して△33.4まで改善しました。

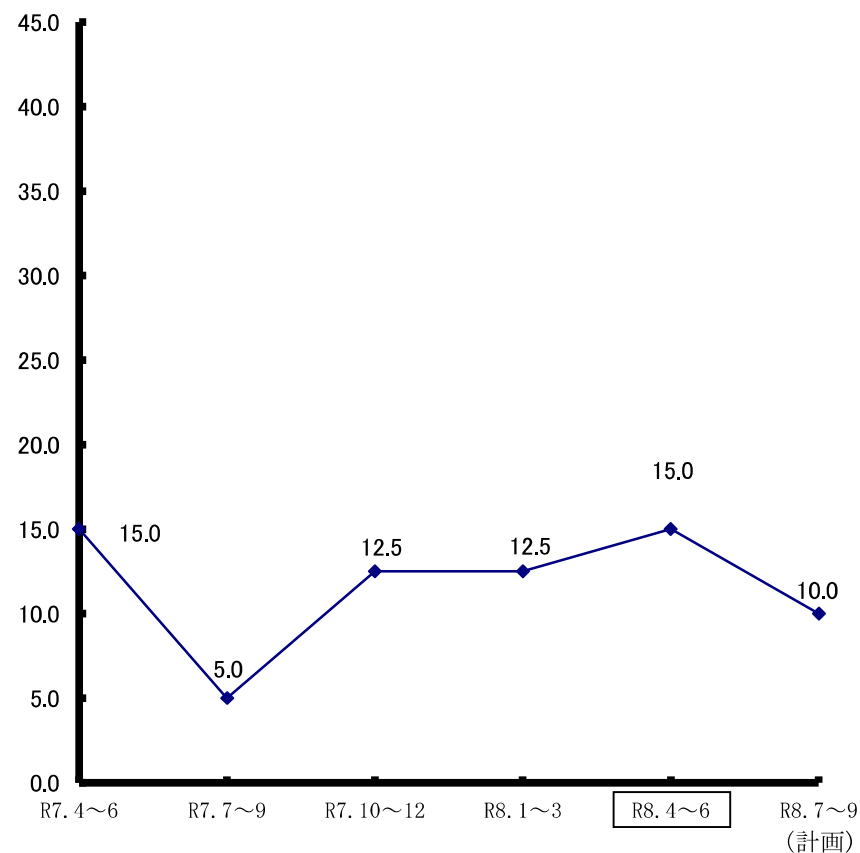
来期は、採算の好転を予想する企業割合はゼロとなり、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは悪化に転じ、引き続き低迷する見通しです。



設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より2.5ポイント増加し、15.0となりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は減少に転じ、10.0レベルにとどまる見通しです。



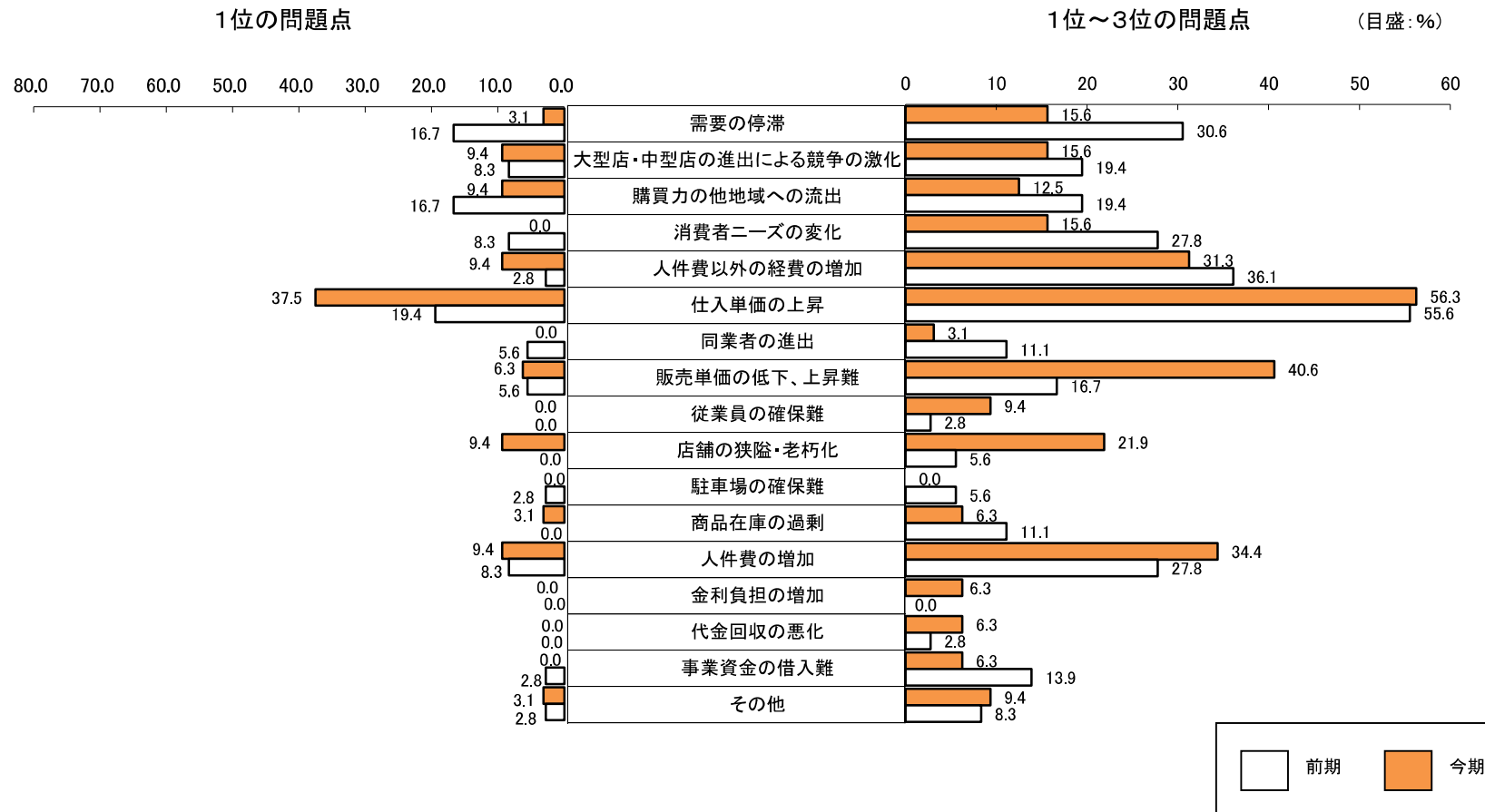
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



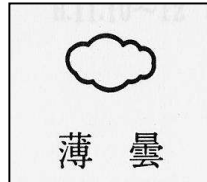
サービス業の推移

売上高

<今 期>

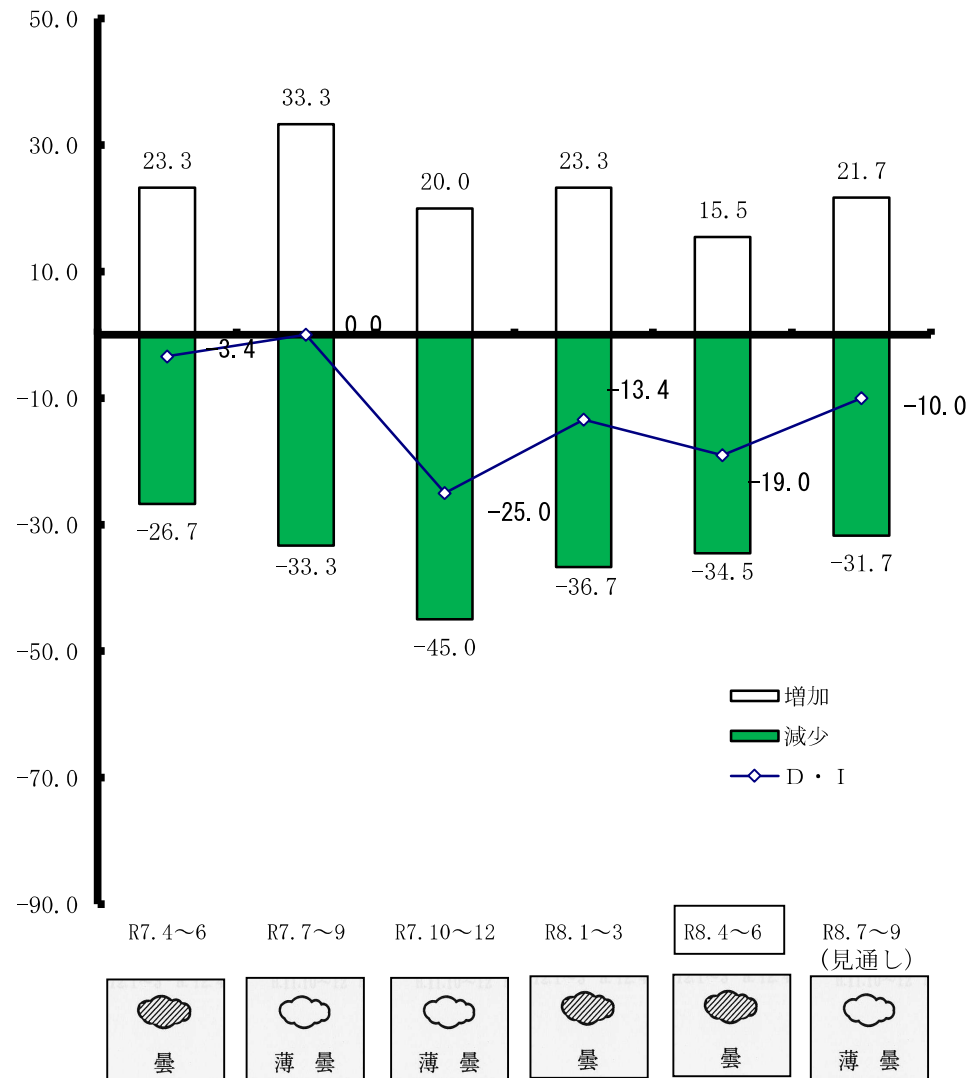


<来期見通し>



今期は売上高減少企業の割合が2.2ポイント減少したものの、売上高増加企業の割合が7.8ポイント減少したことにより、売上高D・Iは5.6ポイントの低下となり△19.0までマイナス幅を拡大しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が増加する一方、売上高減少を予想する企業割合が減少することから、売上高D・Iは上昇に転じ、景況天気図も曇りから薄曇りへと変化することが予想されています。



サービス業の推移

採算

<今 期>

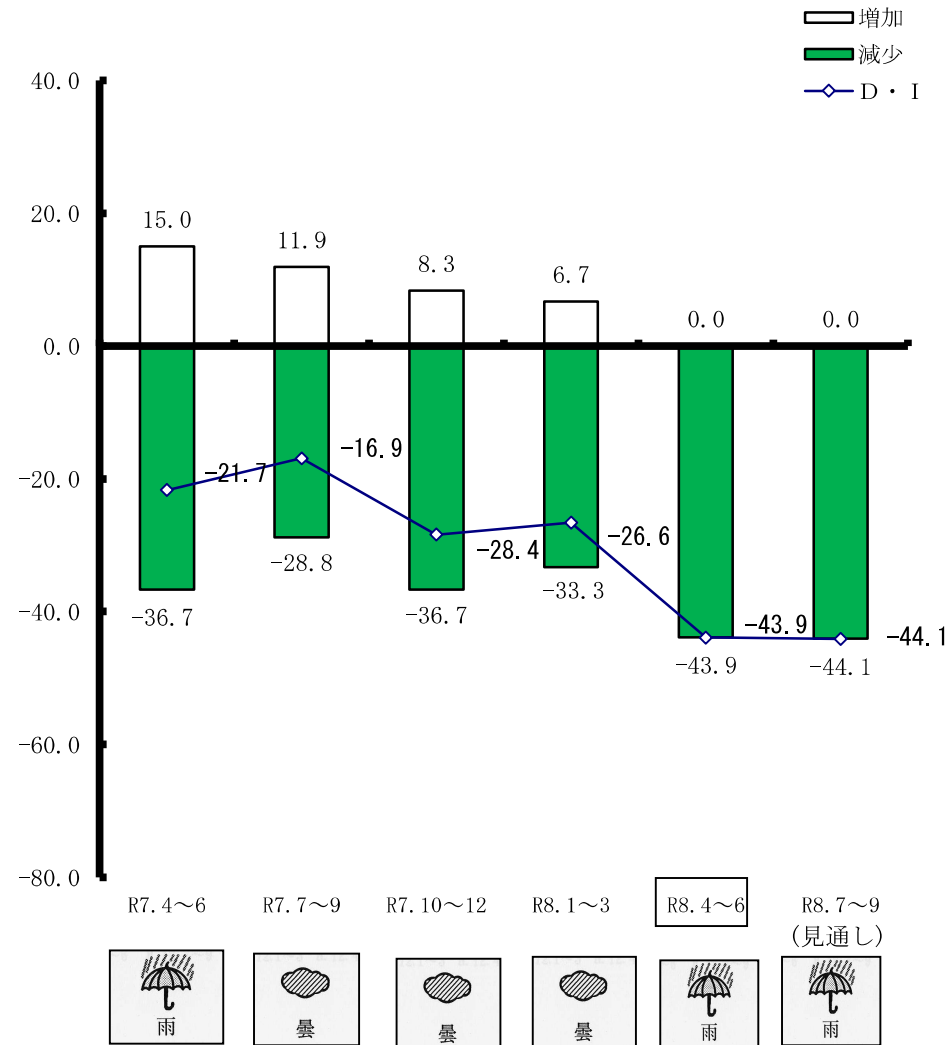


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が6.7ポイント減少してゼロとなり、採算が悪化した企業割合が10.6ポイント増加したことにより採算D・Iは17.3ポイントの大幅な低下となり、△43.9まで悪化しました。景況天気図も曇りから雨へと変化しています。

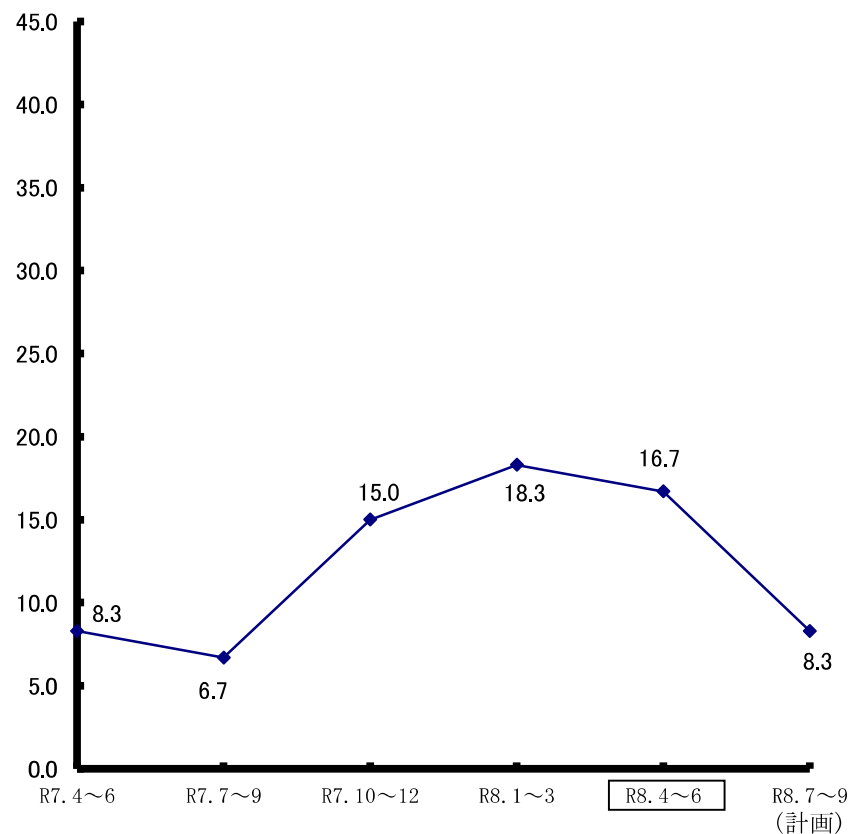
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期に引続きゼロとなり、採算の悪化を予想する企業割合はほぼ今期と横ばいとなることから、採算D・Iは今期とほぼ横ばいの低いレベルにとどまる見込まれています。



設備投資

サービス業において設備投資を実施した企業数の割合は減少に転じ、1.6ポイント減少して16.7となっています。

来期設備投資を実施する企業数の割合は今期に引続き減少することが見込まれ、8.3程度まで減少する見通しです。



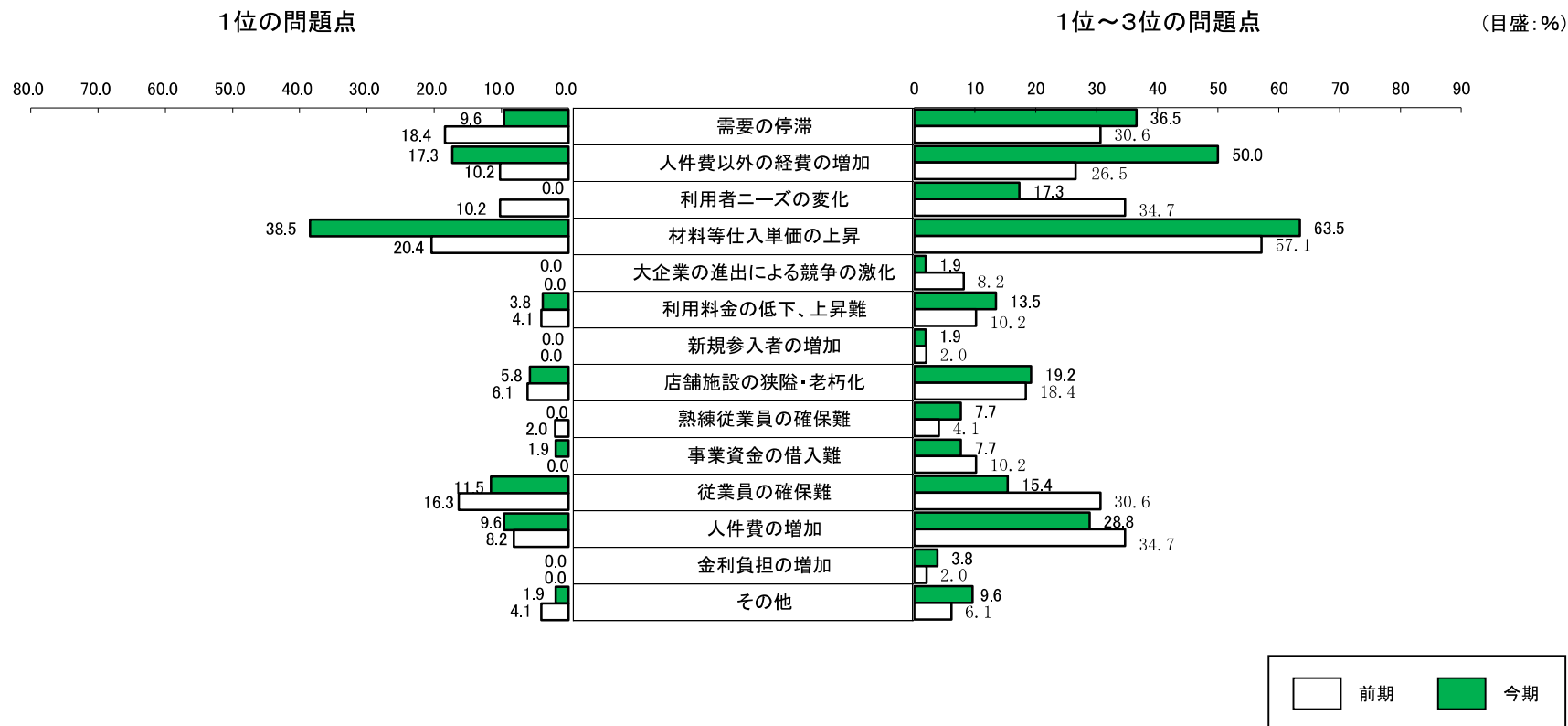
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

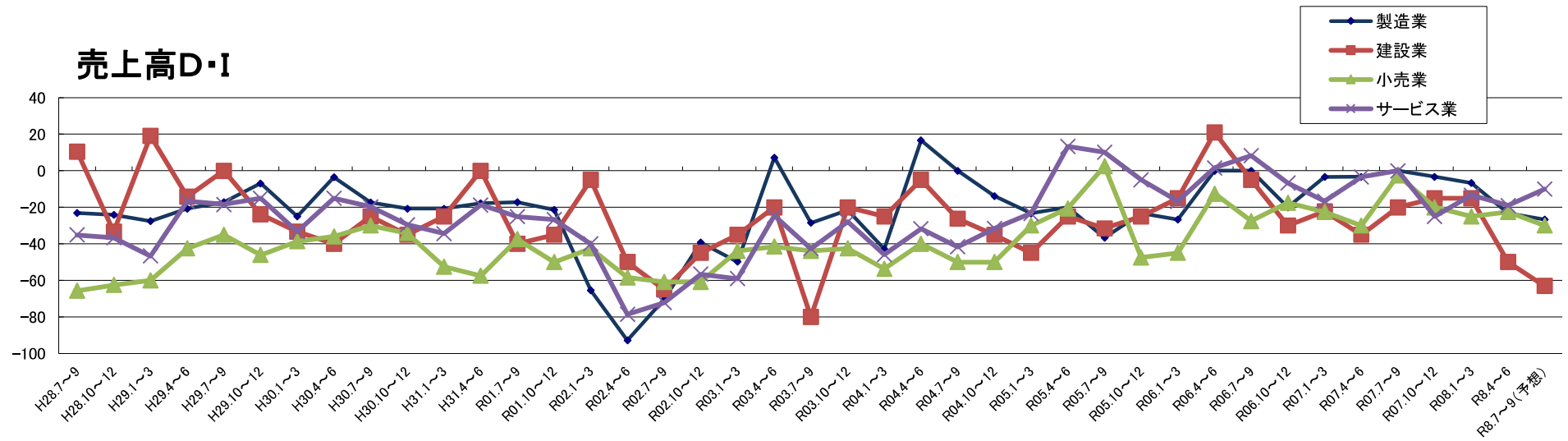
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

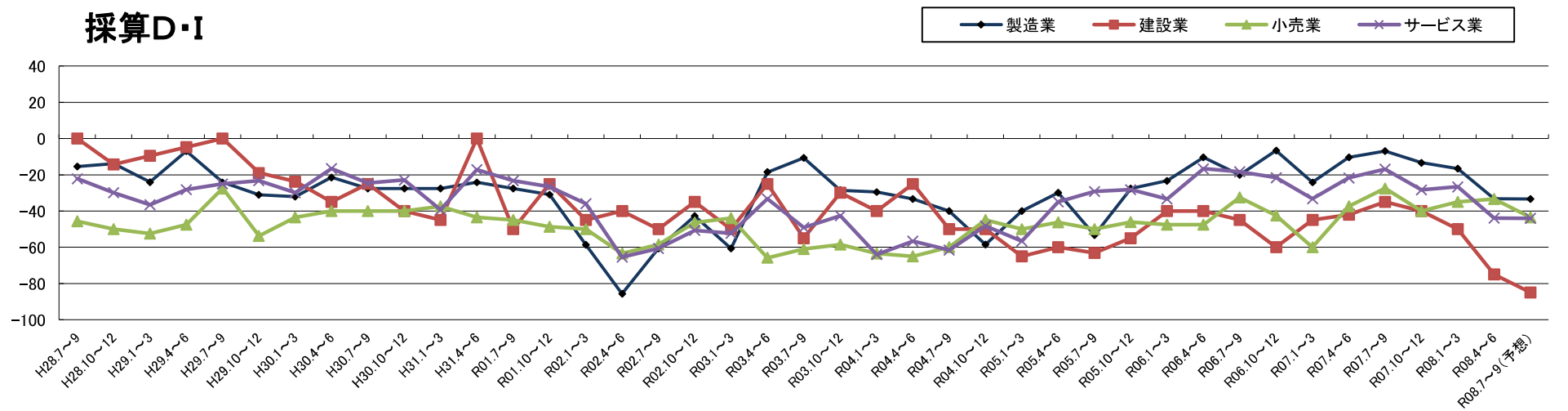


全産業の過去データの推移(過去10年間)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内 10 商工会地区 陸前高田、滝沢市、葛巻町、紫波町、住田町
(商工会名) 大槌、岩泉、軽米町、洋野町、九戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和 8 年 4 月～6 月を対象とし、調査時点は令和 8 年 6 月 1 日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建 設 業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サ ー ビ ス 業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中の D・I とは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。